

②C-18 現時の家族における共同的生活場面の研究(第3報)

山口大 ○益井タツエ
橋部トシ子

1. 第1, 第2報において, 山口県下における近代産業都市に生活する俸給生活者, 小売業者, 農業者の家族の生活実態を調査し, その家族生活の, 共同的生活場面の把握を試みた。今回は同様の目的をもって, 調査対象は, それとの対応において, 比較的隔絶された地域における漁業生活者の家族を選らび調査を行った。即ち山口県熊毛郡上関町祝島における家族生活の報告である。祝島は柳井港より定期船便にて2時間半の距離の瀬戸内海に浮ぶ小島であって, 古くからの生活慣習の残っているものも多く, しばしば社会科学の研究対象とされるところである。

2. 島内の事業漁家30世帯, 兼業漁家(主として農業兼業)30世帯の調査を行った。方法は前二回と全く同様である。即ち家族全員の一週間の生活時間を, 各生活要素別に色分けして, これに生活の共同的生活場面の記録をするのである。

3. 天候が支配する生活時間構造であることが, 漁家生活の特徴の第一として捉えられる。第二としては, 漁業に従事する日が続けば, 夫も妻も夜間に作業をして昼間に就寝する生活が幾日も続く等特異な生活形態が見られる。このような生活条件における家族の共同的生活場面のもつ意味や問題点を種々の観点から検討してみたい。更にこの問題は, 漁家の住居の問題とも関連して, 研究を必要とするものである。